

# 英語

慶應義塾大学 法学部 1/2

<全体分析>

試験時間 80分

## 解答形式

すべてマーク式。

## 分量・難易（前年比較）

分量（減少・やや減少・**変化なし**・やや増加・増加）

難易（易化・**やや易化**・変化なし・やや難化・難化）

英文の総語数は1,689で2025年度の1,754からやや減少。

## 出題の特徴や昨年との変更点

- 語彙力に関する問題、会話の空所補充問題、インタビュー形式の問題、読解総合問題などがバランスよく出題される。
- 設問の指示や選択肢はすべて英語である。
- 2024年度には大問Ⅰ[B]で設問毎に選択肢が与えられる形式の空所補充形式の語彙問題が復活して（前回は1987年度の5肢選択10問）、2025年度も同一形式で出題されたが、2026年度は共通の語群から選択肢を選ぶ形式になった。
- 2020年度に復活したインタビュー形式の問題は7年連続して出題されている。（1999年度、2004年度、2006～2011年度、2014年度にも出題されてきた）
- 2024年度に大問V(46)～(49)で出題された「与えられた発言をしそうな本文の登場人物を答える問題」は2025年度以降出題されていない。
- 2024年度に姿を消した大問Vの語句整序問題とタイトル選択問題が2025年度に復活したが、2026年度は語句整序問題は出題されなかった。
- ここ数年、大問Ⅰでは単語に関する問題がさまざまな形で出題されてきたが、2026年度はまた新たな形での出題である。

## その他トピックス

- かつては頻出だった文法・語法の正誤判定の問題は7年連続して出題がない。

# 英語

慶應義塾大学 法学部 2/2

## <大問分析>

番号	区分	出題分野・テーマ	コメント（設問内容・答案作成上のポイントなど）	難易度
I	その他	語彙に関する問題	[A] 途中部分を抜いて示された5つの単語があり、抜けた箇所に補うと各組のすべてで単語として成立する文字列を選ぶ問題。 [B] 示された4つの名詞を目的語による動詞を共通の語群から選ぶ問題。	標準
II	読解総合	「行儀の悪いクラスメイトの話」 (303 words)	本文中の下線を引かれた語の定義として適切なものを選ぶ問題。定義は英語で書かれている。 下線部の語は難しいものが多いので、単に語彙力だけでなく、文脈から判断して正解を求める読解力が必要。本文中の働きから下線部の語の品詞を判断し、それに合わせて選択肢を絞り込む。確定しにくいところは後回しにするのがよい。	標準
III	その他	会話文 「温泉地での男性とスタッフの会話」	[A]・[B]ともに空所補充。 会話表現に関する知識を問う問題。下線部と空所が混ざって出題されているので、どの選択肢群から選ぶのか混乱しないように注意が必要。	やや易
IV	その他	「難民女性柔道家へのインタビュー」 (615 words)	インタビュアーの言葉とそれに続く柔道家の適切な返答を組み合わせる問題。 インタビュアーの前後の発言や選択肢の中に含まれている疑問詞等に着目して考えると正解がわかる問題が多い。	やや易
V	読解総合	「子どもの発達に遊びが与える影響の変化」(771 words)	内容一致、空所補充、文整序、内容不一致、タイトル選択。 様々な形式の問題が段落毎に出題されているので、各段落の要旨を把握しながら問題に答えるようになるとよい。空所補充や文整序については、設問の選択肢が多いので、選択肢の並びを手がかりに効率よく解くことが重要である。	標準

注：区分は「英文解釈」「読解総合」「英作文」「文法・語法」「聞き取り」「その他」

難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

## <学習対策>

- ・例年、語彙力を問う問題が多く出題されるので、単語・熟語の確実な知識の習得が欠かせない。
- ・読解総合問題では、難度の高い英文が出題されることもあるので、少し難しきめの英文もとりいれながら読解力を高めておくとよいだろう。その際、パラグラフごとに内容を把握することを心がけよう。